

室町時代からの伝統技術 「からむし生産」 伝承とからむし織姫

福島県大沼郡昭和村

昭和村からむし生産技術保存協会／昭和村

1 社会資本の概要

「からむし」はイラクサ科の多年生植物で、古来より織布等の原料として用いられておりました。福島県大沼郡昭和村は、本州唯一のからむし生産地で、約600年前より栽培が行われてきました。からむしの繊維を加工する「からむし織」は、福島県の重要無形文化財に指定されており、貴重な文化遺産として位置付けられております。

昭和村では、からむし生産とからむし織の後継者

育成のため、平成6年より「からむし織体験制度」事業を行っております。この事業の後に建設された「からむし織の里」は、昭和村で最も重要な交流拠点として、その役割を担っております。平成26年4月には、からむし織の里が、道の駅「からむし織の里しょうわ」として登録され、同年8月に開所式が行われました。



昭和村の一大拠点である「からむし織の里」



道の駅開所式の様子

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成6年より行っている「からむし織体験制度」事業は、村内外から応募した女性が、5月から翌年3月までの11ヶ月間、「からむし織姫」として、「からむし栽培」から「からむし織」まで体験していただくものです。

からむしの加工だけでなく、生産の段階から一連して作業を体験いただくことにより、当該事業が、からむしの魅力発信や後継者育成の一翼を担っております。



「からむし」の刈り取りを体験する様子



乾燥させた「からむし」の結束作業を体験する様子

また、この取り組みが行われている中で、郷土料理教室や工芸品作り、自然観察等が行われ、からむし織姫と昭和村の方々との交流が積極的に図られております。

当該事業とは別に教育、文化活動の一環として、地元子どもたちにも体験の場が提供されています。

こうした取り組みは、からむし栽培加工の情報発信にとどまらず、昭和村の歴史や観光情報等、村全体の魅力発信に寄与しております。

3 地域への成果や波及効果等

からむし生産とからむし織に携わっているのは、主に高齢の方々に、以前から後継者不足に悩まされておりました。

からむし織体験制度事業により、織姫と多くの村民が交流を深めることで地域活性化となり、閉塞的になっていた高齢の方々に生きがいが生まれました。

また、体験生として昭和村を訪れた女性の中から、体験終了後も昭和村に定住し、からむし生産の後継者となった方もいらっしゃいます。



「からむし織」を体験する様子



織姫とからむしに携わる方々

喜びの声



●受賞者

昭和村からむし生産技術保存協会
会長 星 為夫

●コメント

(手づくり郷土賞を受賞して) 非常に嬉しい。今後も、からむし生産に一生懸命に取り組むことで、昭和村の「からむし」を広く知ってもらい、村がさらに元気になるようがんばりたい。

そして、先祖より伝えられ、守られてきたからむしを次の世代へ伝え残していきたい。

●活動内容

からむし生産と、からむしを通じた地域づくり活動

●活動の経緯

平成2年 協会設立
平成2年 福島県選定保存技術に選定
平成3年 国選定保存技術に選定
平成6年 織姫体験事業開始

所在地

福島県大沼郡昭和村大字佐倉字上ノ原1

活動主体及び連絡先

昭和村からむし生産技術保存協会
(0241-57-2216)

対象となる社会資本

道の駅 からむし織の里しょうわ
※管理者：昭和村

